

希望の種

ふくおか NPO ファイル

②1

北九州市八幡西区の企業「計測検査」のオフィスには、社員が休憩時間などに食べる事ができる「お菓子BOX」が置いてあります。クッキーを中心に、プレッツェルやマドレーヌなどの焼き菓子が並び、どれも1個100円。BOXの横にある貯金箱に料金を入れ、約2週間に1回の割合で中身を補充する「置き菓子」です。

菓子は全て市内7カ所の障害者福祉施設で作られた商品。お菓子BOXの設置は今、市内の30カ所の企業や団体に広がっています。

このアイデア「おいしい輪☆ぷろじえくと」を形にした

わくわーく

事務所=北九州市八幡東区▽電話番号=093(671)1221
メールアドレス=wakuwakuinfo@wakuwa-ku.com

のは、NPO法人「わくわーく」(北九州市八幡東区)。

社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員等の資格を持つスタッフ5人で2010年に設立されました。主に精神障害のある人を対象にした障害福祉サービス事業所を運営しています。

地元産の野菜、みそやしょ

うゆ、老舗酒蔵の酒かすを材料に使い、独自開発したレシンの菓子は人気で、補充が間に合わずに売り切れてしまうことも。

「でも、商品はまだまだ開発途上。形のぼろつきが気になる、甘みが足りないなどの注文も寄せられる。試行錯誤しながら『障害者施設で作るお菓子』ではなく『おいしいお菓子』として広まることを願っています」とスタッフの

力を合わせて対等に

宮崎淳子さん(55)は話しま

障害者就労継続支援事業には、ある程度の作業や接客能力がある人を対象に雇用契約を結び、対価としての賃金を渡す「A型」と、「授産」と呼ばれる仕事の訓練や能力開発を行いながら工賃を渡す「B型」があります。特に「B型」は収入を得ることが難しく、14年の厚生労働省の調査

向上を目指すため「お菓子BOX」が始まりました。わくわーくの事務所は商店街近くのビル1階。市内の障害者や高齢者の手づくり商品を並べたガラス張りの店舗を併設し、地域の人が立ち寄ることも少なくありません。商店街のイベントなどには積極的に参加し手伝うようになっています。

利用者が多くの人と関わることによって、自分には何ができて何ができないかを把握できると、全国の人々も利用者を「障害者」ではなく、「○○さん」と認識してくれるようになるそうです。わくわーくの目指す「障害のある人を含む地域住民の誰もが、心と身体が健康で豊かに過ごせるまち」が、足元から少しずつ実現しています。(仮認定NPO法人「ア

えくと」に参加している7施設も「B型」で、全体の収入



「わくわーく」のお菓子BOX。右の貯金箱に料金を入れる